



▲地引き網を手繰る参加者たち



▲大漁・大漁

力の限り そーれ!

十三子ども会地引き網体験

十三地区子ども会主催による地引き網体験が、9月19日行われ、参加した子どもたちは歓声を上げながら引き上げた網から魚をとりはずしていました。

とりたての魚はその場で試食され子どもたちは楽しい一日を過ごしていました。

いつまでも元気の願いを込めて 平成11年度 **敬老会**

九月十二日コミュニティセンターにおいて敬老会が開催され、七十歳以上の高齢者二百人が参加し、お互いの健康や長寿を喜びあい楽しいひとときを過ごしました。

敬老会式典では、主催者である村赤十字奉仕団の小田桐恭一団長が、「お互い手をとりあいながら、励ましあいながら生きていくという喜びをわちあいましよう」とあいさつ、高松村長が「日本は世界でも一番の長寿国、百歳の大台を超えるという希望と気迫をもって長生きして下さい」と、浜田議長が「上寿の祝い(百歳)、川寿の祝い(百十歳)を目ざしいつまでも活躍下さい」と参加者を激励しました。

引き続き行われたアトラクションでは、各地区奉仕団による踊りなどが披露され、参加者は楽しいひとときを過ごし長寿を喜びあっていました。

また、九十歳以上の長寿の方に村から顕彰状が贈られました。

《顕彰状受賞者》

榊引リワ(脇元)
藤田ヒデ(磯松)
三和 釋(相内)



▲「いつまでも長生きしてください」高松村長がお祝いのあいさつ



▲敬老会には200名の参加が…



▲村から顕彰状が贈られました



▲華麗なステップ

(各地区奉仕団による芸能発表)



▲ラッセラー・ラッセラー…ねぶたではありません

平成11年 市浦村長寿番付

東 方						西 方					
位	氏 名	世帯主	年齢	生年月日	地区	位	氏 名	世帯主	年齢	生年月日	地区
横綱	藤田 はつ	長作	98	M.34. 3.28	磯松	横綱	安田 源三郎 和田 善次郎	源金 春 源 一	97 97	M.35. 5.24 M.35. 7.15	十三 相内
大関	有馬 アサ	正年	96	M.36. 8.29	十三	大関	武田 ソヨ	長治男	94	M.38. 5.24	太田
関脇	伊南 伊喜	サヲ	93 93	M.38.11. 1 M.39. 2. 8	磯松 磯元	関脇	楠引 ミワ	一	93	M.38.10.12	磯元
小結	高小 和松	マヤイ	92	M.39. 9.20	相内	小結	山内 山内	ヨ松	92	M.40. 5.25	相内
	三小 高小	タキヤ	91	M.40.10. 1	十三		佐々木	キ由	91	M.40.11.24	相内
	小工 桐	キヌタ	91	M.40.11.27	磯元		佐々木	マサ	91	M.40.11.30	太田
	越 藤	キヌタ	91	M.41. 1. 5	太田		渡辺	マキ	91	M.41. 2. 1	磯元
	越 藤	キヌタ	91	M.41. 2. 3	十三		渡辺	マキ	91	M.41. 4. 5	磯元
	越 藤	キヌタ	91	M.41. 4.27	十三		渡辺	マキ	90	M.41. 9. 7	十三
	越 藤	キヌタ	91	M.42. 2.20	磯元		渡辺	マキ	90	M.42. 3.27	磯松
	越 藤	キヌタ	90	M.42. 6. 2	相内		渡辺	マキ	90		
	越 藤	キヌタ	90				渡辺	マキ	90		
	越 藤	キヌタ	90				渡辺	マキ	90		
前頭	小三 山和	は慶	89	M.42. 9.17	十三	前頭	奈良 直美	國利	89	M.42.10.19	太田
2	三佐 藤和	慶博	89	M.42.11.30	相内	2	黒川 島	直美	89	M.43. 4.22	磯元
3	三佐 梶	博一	88	M.43.11. 3	相内	3	豊島 坂	直美	88	M.43.12. 1	十三
4	三佐 梶	博一	88	M.43.12.17	相内	4	豊島 坂	直美	88	M.44. 3.27	十三
5	三佐 梶	博一	88	M.44. 4.11	相内	5	豊島 坂	直美	88	M.44. 5. 8	相内
6	三佐 梶	博一	88	M.44. 7. 1	相内	6	豊島 坂	直美	88	M.44. 8.14	相内
7	三佐 梶	博一	87	M.44.11.10	磯元	7	豊島 坂	直美	87	M.44.12.20	十三
8	三佐 梶	博一	87	M.45. 1. 9	磯元	8	豊島 坂	直美	87	M.45. 2. 2	磯松
9	三佐 梶	博一	87	M.45. 2.21	太田	9	豊島 坂	直美	87	M.45. 4.13	太田
10	三佐 梶	博一	87	M.45. 4.16	磯松	10	豊島 坂	直美	87	M.45. 6.23	相内
11	三佐 梶	博一	87	T. 元. 8. 8	磯元	11	豊島 坂	直美	86	T. 元. 9.20	磯元
12	三佐 梶	博一	86	T. 元.10. 2	十三	12	豊島 坂	直美	86	T. 元.11.15	相内

(平成11年9月1日現在)

市浦村長寿番付東正横綱・藤田はつさん(磯松)がこのたび白寿を迎えたことにあたり、郵政大臣からの「お祝状」が、三和孝徳市浦郵便局長から伝達されました。

郵政大臣からの「お祝状」が贈られたことに対し、藤田さんは、「ありがたいことです」と白寿とは思えない元気な声で喜びをかみしめていました。

三和孝徳市浦郵便局長は、「白寿は通過点、これから百歳、百歳と上を目ざしていつまでも長生きして下さい」と藤田さんにお祝いの言葉をかけていまし



▲郵政大臣からの「お祝いのことば」



▲とても元気な藤田はつさん

市浦郵便局

藤田はつさんに白寿のお祝状



▲相内奉仕団のみなさん



▲磯松奉仕団のみなさん

雨の中木無岳を踏破

第九回親子登山の集い

「親子登山の集い」が九月十一日、木無岳(標高五八七・三〇)で行われ、参加した八十一人が山頂からのすばらしい眺望に満足しました。

これは子どもたちに必要な社会体験、自然体験を通して、感性やたくまさを育てるとともに、身近な自然を活用し、登山をしながら自然観察を行い、山や森林、林業の大切な役割を学ぼうというもので、今回で九回目の開催となります。

この日は、太田小学校前、登山上の注意やコースの説明が行われたあと、バスで登山口まで移動。登山口に着くと小雨が降りだし、開催があやふれしましたが、参加者から「行ける所まで進んでみよう」と声があり、登山を開始。途中激しい雨に見舞われたりして、天候の様子を見ながらの登山となりました。しかし、参加者全員がお互いに励ましあい、約二時間をかけて全員無事、山頂に到着しました。山頂では、雨も上がり、時折青空ものぞくなど眼下に広がる十三湖、もや山、権現崎などのす



▲参加者全員で山頂での記念撮影

ばらしい眺めに参加者全員が満足し、村の誇る自然を満喫していました。

下山時には、ふたたび激しい雨に見舞われながらも、大人が必死に子どもを引き抱きかえたりして、みんなで協力しあい、無事登山口に到着しました。

最後はあったかい豚汁に舌鼓を打ち、激しい雨の今回の登山の集いを振り返り、い

第二回十三湖高原駅まつり

道の駅「十三湖高原駅まつり」が九月十一日、十二日の二日間開催されました。

今年で二回目となる十三湖高原駅まつり、市浦牛やしほ、もや焼、市浦産のトマトやかぼちゃ等の市浦村の特産品の特別販売や相内の虫送り、十三の砂山などの郷土芸能が披露されました。初日は、あいにく一日中、雨に見舞われ人が今一つでした。しかし、まつり二日は好天に恵まれ、道の駅は大勢の観光客で、路上駐車がでるほどにぎわいを見せ、鎌田幸男さんのなつかしのフォークソング・ライブコンサートや協元の小馬踊りが披露されるなど、訪れた観光客を魅了していました。



▲なつかしのフォークソングを唄う鎌田幸男さん



▲市浦野菜はいかがですか



▲生ビールとバーベキューに大満足



▲市浦牛を買い求める人たち

地域農業の将来展望を拓こう

—第十九回北五地区農業委員会大会—
市浦村で開催

九月二日第十九回北五地区農業委員会大会が市浦村コミュニティセンターを会場に開かれました。

「地域の特性に応じた農業の確立をめざそう」などを大会スローガンに北五地区市町村農業委員や関係機関の職員など約二五〇名が参加、大会では高松村長が歓迎のあいさつと「農業者の代表として、日頃ご尽力されている農業委員の皆さんに深く敬意を表する」と祝辞を述べました。

その後、村農業委員会村元則美会長が大会議長を務め議事に入り、「水田を中心とした土地利用型農業の活性化に関する要望」など四議案が原案どおり決議され閉会しました。



▲市浦村の農業委員のみなさん



▲高松村長を囲み記念撮影

九月九日盛岡市内において、市浦村が友村として委嘱した作家の高橋啓彦さん、瀬川君雄さん（感神の星吉昭さんは都合により欠席）の二名が出席し、村友会議が開催されました。市浦村からは、高松村長ら四名が出席しました。

市浦のみなさんによろしく 村友会議



▲村友の高橋克彦さん(左)と瀬川君雄さん(右)

会議では、高松村長が「日頃村友のみなさんには、市浦村ビジュアルのためご尽力いただき感謝している。現在村では、二十一世紀に向け、健康をキーワードにした海水温泉建設の準備をすすめています」と村友の方々への感謝と村の近況報告を兼ねあい話しました。

九月九日盛岡市内において、高橋さんからは市浦には、十三湊のロマンを求めた人たちが来る、そういう方々のために十三湊案内所などが必要ではないか、瀬川さんからは、十三湊遺跡の発掘現場はそのままの状況で、保存し残しておく必要があるのでは、などの意見が出されました。

高橋さん、瀬川さんからは、「久しぶりに市浦村の関係者の皆さんとお会いできてうれしかった。今後も市浦村ビジュアルのために、村友として頑張ります」と話していました。

初めての運動会

―アトム保育園―



▲よーしっ、釣れたー



▲ゴールまで仲よく一緒に



▲園児全員による鼓笛を披露



▲「おじいちゃん、早く、早く」



▲「それーガンバレー」

健康づくりの
ポスター図案で
佳作



小5年 奈良彩未さん

平成十一年度青森県生き生き健康づくりポスター図案の部において、太田小学校五年生の奈良彩未さんの作品が佳作に選ばれました。

青森県内の八保健所から標語・ポスター併せ約二、〇〇〇点の応募の中から、青森県生き生き健康推進大会で活用される六作品の中に選ばれたものです。奈良さんは、県内からたきさんの応募があるのに自分の作品が佳作だと聞いてびっくりした。選ばれてとてもうれしいです」と話していました。

なお、九月十六日に開催された青森県生き生き健康推進大会で行われた表彰式にお母さんと一緒に参加した奈良さんに賞状と記念品が贈られ、五所川原保健所の関係者からも喜びの声が上がっていました。

サイギギ・サイギギ： 脇元岩木山神社大祭

五穀豊稔と家内安全を願う脇元岩木山神社大祭「お山参詣」が九月九日、十日の二日間(旧暦の八月一日)行われました。九日の前夜祭のカラオケ大会を皮切りに大祭が始まり、十日のお山参詣では、脇元小馬踊りを保存会、脇元小学校児童らによる小馬踊りを先頭に、引き続き御幣、のぼりを掲げた参詣者が洗魂神社を出発、登山ばやしにあわせて、「サイギギサイギドッコイサイギ」を唱えながらもや山を目指しました。



▲小馬踊りが行われました

その後、もや山ふもとの祭会場では、テレビやラジオでおなじみの「けんづろう」さんのものまねショーや丸太切り大会、脇元婦人会などによる芸能発表会などが行われるなど、祭会場は最後までにぎわいをみせていました。



▲丸太切り大会
「どちらが早いか」



▲「けんづろう」さんのものまねに「上手だ」

▶「サイギギサイギ、ドッコイサイギ」



ゲートボールで交流を深めよう 上ノ国町との友好町村高師

ふれあひ交流

今年で十回目となる友好町村高師ふれあひ交流ゲートボール大会が九月二日山田広場ゲートボール場で開かれ上ノ国町選手二十五名、市浦村選手三十名の選手が参加しゲートボールで交流を深めました。

当日は、開会式を行い古川長光老人クラブ連合会長が、「日頃の練習の成果を充分発揮して下さい」と選手を激励、昨年優勝の上ノ国町チームから優勝杯返還のあと早速競技に入りました。

大会では、両町村それぞれ四チームの八チームが二コートに分かれ予選リーグを行い熱戦が繰り広げられ、各コートの上位二チームが決勝リーグに進みました。

決勝リーグでの優勝決定戦は上ノ国チーム同士との対戦となり上ノ国Bチームが上ノ国Cチームを下し優勝、三・四位決定戦は市浦Gチームと上ノ国Aチームの対戦となりましたが、こどもも上ノ国Aチームが勝利をお

大切な命を救うために

市浦中学校で救命講習会

九月十七日市浦中学校において、三年生三十三名を対象に心肺蘇生法や応急手当に関する救命講習会が開かれました。

この講習会は救急現場に居合わせる方に対して心肺蘇生法などの応急手当が施せるよう養成し、救命率の向上をより一層図ることを目的に行われたもので指導には、市浦消防署員の方々があたりました。

講習会では、消防署員から応急手当の重要性などの説明を受けた。

けたあと、早速、心肺蘇生法の実技に入り、中学生一人ひとりが実際にタミイ人形を使い人工呼吸や、気道確保、心臓マッサージなどの指導を受けました。奈良和久くんは「人工呼吸は思ったより、息がうまく入らず難しかったです。でも、いざという時には役にたてる、自分としては、九十五点の出来、と感想を述べるなど、生徒たちは応急手当の重要さと適切な方法を学びました。



▲「1、2、3、4、…」心臓マッサージ



▲上ノ国チームが優勢に試合を運び市浦チーム苦戦

なお講習を受けた生徒全員に救命技能を有することを認証する「普通救命講習会終了証」が交付されました。

さめ市浦村チームは四位が最高でした。競技終了後は、昼食をとりながら交流を深め、お互いのプレ―をたたえあっていました。

やまなみバス今年度の運行終了

六月一日から八月三十一日まで市浦・蟹田間で運行されたやまなみバス、今年は三か月間で千十五人の利用者がありました。これは昨年の運行期間中の総利用者千三百九十五人と比べ約三百八十人の減少となりましたが、今年度も多くの各種団体等の利用がありました。

八月二十九日太田小学校PTAの研修会でやまなみバスを利用した奈良睦英さんは、やまなみバスからフェリーがもしかかを乗り継ぎ下北観光を楽しんだ。日帰りでできるし下北との交流や研修など利用価値は高い。来年もやまなみバスを運行してほしい」とやまなみバスの効果を語っていました。

今年度最後の運行となった八月三十一日には、十三公民館前において、終着式を行い、工藤助が「昨年より利用者が減ったが、引き続き来年度の運行継続を県や関係機関に働きかけた」とあいさつ。来年度以降のやまなみバス運行に期待がかけられます。

●月別乗客数

月	乗客数	1日当りの平均
6月	299人	9.9人
7月	297人	9.6人
8月	419人	13.5人
計	1,015人	11.0人

●曜日別乗客数

曜日	乗客数	利用割合
月	160人	15.8%
火	138人	13.6%
水	143人	14.1%
木	82人	8.1%
金	64人	6.3%
土	159人	15.6%
日	269人	26.5%
合計	1,015人	100%

▶三ヶ月間運行されたやまなみバス



●前年度との比較

年 度	乗車人数
平成10年度実績	1,391人
平成11年度実績	1,015人

熊の出没に注意して下さい

9月28日、桂川集落より約4km程山に入った通称「アイハギ林道」において熊のものと思われる糞が発見されました。

これからはキノコ採りの季節でもあり、山に入る時には「鈴・ラジオ等」を身につけ十分注意して下さい。

なお、目撃情報については下記に連絡して下さい。

☆市浦村役場経済観光課

0173-62-2111
(内線27・28)

☆金木警察署相内駐在所

0173-62-2219

☆金木警察署 0173-53-2117

☆津軽森林管理署市浦事務所

0173-62-2121

安藤の里めぐりバスツアーは七月二十日から八月二十日までの一か月間行われました。バスツアーは、十三溪遺跡特別展の参観や発掘現場の見学など、「十三溪遺跡」をテーマとしてコースが組まれていることなどから、ツアー期間中県内外から二百二十名の参加者がありました。

また、ツアー案内役を務めるバスガイドは、村内のボランティアガイドとあって、ツアー参加者からは、「安藤の里めぐりバスツアーに参加して有意義だった」、「ツアーの皆さんが大変親切で心温まるおもてなしをしていただいた。市浦村の意気込みを感じる。」などのお礼や感謝の気持ちをつづった手紙が届きました。盛況のうち終了しました。

安藤の里めぐりバスツアー盛況のうち終了



▲県内外からたくさんの参加者がありました

健康増進施設について その四

市浦村議会フランス 視察研修報告

◎「タルムマラン」に関する
事前研修について

研修の最大の目玉でもある、「タルムマラン」については、昨年十一月二十日に千葉県勝浦市にある「テルムマラン・パシフィック」の野田史取締役と宮地正典ジェネラルマネージャーを講師に事前研修を実施し、研修に備えました。

宮地マネージャーは、一行が視察する「テルムマラン・サン・マロ」で研修をしており、視察先をOHPを使って、詳細に説明をして戴きました。

「テルムマラン・サン・マロ」は、英仏海峡に面する人口六万人の大都市で、海の干潮と満潮の差が大きい、地形的な特徴を活かし、施設の建設がされて

おり、海水を加熱処理して利用しているとの説明がありました。十一月二十九日(日)、一行は成田空港を飛び立ち、パリのシャルル・ドゴール空港へと向

かいました。

約十二時間のフライトで夕刻パリ郊外のシャルル・ドゴール空港へ到着。一行は足取りも軽く、トラプル無入国手続きを完了し、研修がスタートしました。

十一月三十日(月)午前五時四十五分のモニング・コールからはじまり、パリは、緯度が樺太と同じくらいで、夜が明けると午前八時すぎです。

一行は、朝食を済ませ、TG V(フランスの新幹線)で、レンヌに向かうため、午前七時十五分ホテルを出発しました。

夜明けは未だ一時間ほどあるので、外は真つ暗でした。

◎ブルターニュ地方とサン・マロ市
ここで、ブルターニュ地方とサン・マロ市について、簡単に紹介をしたいと思います。

ブルターニュ地方は、漁業・酪農・果樹等が盛んで、りんご、ブドウ、カワワワー、ビートの作付けが多いところです。代表的な食品にクレープがあり、飲み物としてワインよりもリゴンゴを原料とした、シードル(アルコール度四%)があります。



サン・マロ市は、サン・マロ湾に突き出した旧市街地を、花崗岩の城壁が囲んでいます。旧市街地は、第二次世界大戦でドイツ軍の爆撃を受け、破壊されたが、戦後建物等が復元されました。

サン・マロは、海の荒くれ男達が発見したジャック・カルティエの出身地として有名です。また、十六、十七世紀には、国王から海賊行為を認可された私掠船「コルセール」の港として、フランス最大の繁栄を誇った街です。

海は、南フランスのコート・ダジュール(碧碧海岸)と対照され、コート・ド・エメロド(エメラルド海岸)と称されています。

ユ・ロリック氏が社長に就任したが、きつかけと云われています。

「テルムマラン・サン・マロ」は一九六三年開業で、三十年余の経歴と実績を誇っており、大きく飛躍を遂げたのは、セルジ

ロリック社長が、フランスで初めて「アクアトニック(ジェット水流や泡を使った海水プール)」を、導入したことによるものです。

また建物のグラン・ホテルは、一八六七年に建てられた、由緒ある建物ですが、外부는十九世紀の古さを残しながら、内部は時代に合った合理性「テルムマラン・サン・マロ」と近代的な設備に改築されています。

「アクアトニック」と二つの「ソアング」を、体験することになりました。フランスの「タラソテラピー」は、医療保険の対象となっていますが、最近では医療体制の完備が条件となり、医療保険対象外の施設が増えています。

「テルムマラン・サン・マロ」には、七名のドクターが在籍しており、理学療法士、水治療士、運動療法士等の有資格者はじめ、百名の従業員が働いています。

◎「アクアトニック」について

「アクアトニック」は、二百〜六百mの間で、アトリエ（コースの設定方法）が可能であり、「歩く、坐る、泳ぐ、打たせる」等があり、水流の方向変化や、海水温の変化等により、老若男女が楽しめる施設であると、自覚のある説明でした。

海水温は、三十三〜三十五度に設定しており、夏も冬も一定にしているが、日本人に対しては、もう二℃ほど高めに設定する方が良く、アドバイスを受けます。

私たちが一行は、「アクアトニック」と二つの「ソアング」を、体験するため、水着に着替えて、バスローブをお借りして、集合となり、各自名前を呼ばれ、指定された二つの「ソアング」を

各自体験しました。

最後に「アクアトニック」を体験し、無事終了となりました。

体験終了後、着替えを済ませ、会議室に集合し、総括質疑に移りました。

輸出マネージャーのローさんが、ビデオを使って、更にタラソテラピーの説明と、質問に答えてくれました。

「アクアトニック」については、二百〜六百mの範囲でコースの設定ができ、歩く、坐る、泳ぐ、打たせる、ジェット噴射の組み合わせも、自在に出来るということでした。

海水の取水方法についての質問には、サン・マロ湾の五百m先から、ポンプにより取水しているとの答えでした。

また、グラン・ホテルは、百八十九の客室があるが、常に満室状態であり、周辺のホテルからお客さんも多く、そのため「テルムマラン・サン・マロ」の周辺には、多くのホテルとレストランが見られました。

「テルムマラン・サン・マロ」は一月は設備等のメンテナンスのため、グラン・ホテルと共に休業となるが、それと同時に周辺のホテルとレストランも休業するというので、タラソテラ

ピーがこの街の商業活動に対する影響力の大きさが推測される。

参加した議員から、多くの質問が出され、それに対しローさんは丁寧に答えてくれましたが、通訳を介してのやり取りなので、時間がかかり、とうとう夕食会の時間というところで、質疑の時間を終わることとなりました。

会議室から、直ちに階下のレストランに場所を移し、「テルムマラン」社長セルジュ・ローリック氏との、夕食会になりました。

夕食会の冒頭に浜田議長のあいさつがあり、引き続きローリック社長が歓迎のあいさつをされました。

浜田議長から日本（市浦村）から持参した、記念品をローリック社長に手渡し、固い握手を交わしました。

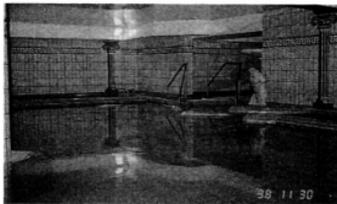
ローリック社長は、歓迎の内容が多岐にわたらず、予定の時間ギリギリまで続けました。

ローリック社長は、是非日本の市浦で「タラソテラピー」を造って戴きたいと、指導、援助の言葉が力強い助言と、協力の言葉があり、研修視察団一同、心強く感じローリック社長にお礼の言葉を述べ、多忙な一

日が終わりました。

（文責 古川 徹）

1つづい



合格

おめでとう

第百十四回全国商工会算珠検定試験が九月十六日、村内各小学校において行われました。受験者数二十名で合格者は次のとおりです。

- ▼二級
 - 石岡剛宗（辻分珠算塾）
- ▼三級
 - 越谷めぐみ（浦田塾）
- ▼四級
 - 若山知裕（浦田塾）
- ▼五級
 - 新岡歩美（浦田塾）
- ▼八級
 - 平野美晴（辻分珠算塾）
 - 竹谷沙希子（辻分珠算塾）
 - 中井亮（浦田塾）
- ▼九級
 - 新岡詳久（浦田塾）
 - 武田美穂（浦田塾）

平成11年度関東地区「ふるさと市浦会」総会・交流会

1.日時 平成11年11月27日(土) 18:00～

2.場所 品川プリンスホテル 19階 鎌倉

市浦村からの関東地区「ふるさと市浦会」総会・交流会参加者を募集いたします。

今年は11月25日バスで出発し、今市浦村で予定しているタラソテラピー施設と同様な施設である、千葉県勝浦市にあるテルムマラン・パシフィックでのタラソ体験コースと、昨年とおりの前日(26日)夜出発、活彩あもりドームフェア参加後、総会、交流会コースの2コースで募集いたします。

募集人員は各コース共22名で、参加者多数の場合抽選となります。

○各コースの参加料金は—

Aコース タラソ体験ドームフェアコース 30,000円

Bコース ドームフェアコース 20,000円

※11月27日品川プリンスに宿泊されな方は、Aコース・Bコース共10,000円引きとなります。

○参加申し込みと詳細についてのお問い合わせ 企画財政課 62-2111(内線18・19)まで

消防・ネットワーク

火事と救急・
救助は
119番

『秋の火災予防運動』

統一標語

「あぶないよ」

ひつりぼつちにした

その火」

猛暑の夏、残暑もようやく過ぎ、気が付くと、ストーブの取り付け準備の必要な季節となりました。

平成十一年「秋の火災予防運動」が十月十八日(月)から十月二十四日(日)までの一週間行われました。

この運動は火災の発生しやすい気候となる時季を迎えるに当たり、普段から「火災予防」を心掛けて居る住民の皆さんにより一層の普及を図ることに

より火災の発生を防止し、死傷事故や財産の損失を未然に防ぐ事を目的として行われます。

火災予防期間中に行われる、五者合同パレード(アトム幼年消防クラブ・太田小少年消防クラブ・市浦婦人防火クラブ・消防団・消防署)では、全村を、鼓笛演奏、呼びかけ行進をして

歩きます。

夜間には、警鐘を鳴らしての火防巡回も行われます。

今年も「あぶないよ ひつりぼつちにした その火」を統一標語に、住民の皆さんには、次にあげる火の用心七つのポイントに気を付け、火災のない市浦村をめざし、火災予防運動への参加、ご理解ご協力をお願いいたします。

火の用心

七つのポイント

一、家のまわりに燃えやすいものを置かない。

二、寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。

三、天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。

四、風の強いときは、たき火をしない。

五、子供には、マッチやライターで遊ばせない。

六、電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない。

七、ストーブには、燃えやすいものを近づけない。



▲7月30日行われた太田小少年消防クラブによる火災予防の呼びかけ

介護保険シリーズ ①

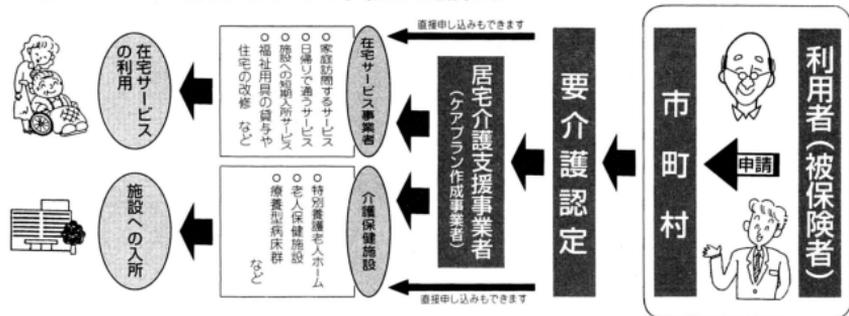
介護保険の利用には 申請が必要です

平成12年4月1日より介護保険制度がスタートしますが、それにさきかけて介護保険を利用するために必要な介護保険の申請がはじまりました。

そこで今回から数回にわたって介護保険の申請から介護サービスを受けるまでの流れをお知らせします。

「介護サービスを利用してみたいんだけど…」
そんな方は、申請に当たってこれだけは知っておきましょう。

●介護サービスを受けるまでの手続きと流れ●



今回はこの部分についてお知らせします

◎40歳以上のこんな人が申請できます

1. 一定期間連続して、身じたくや掃除・洗濯・買い物等といった身の回りのことができず、日常生活において支障がある可能性の人。
(こうした状態を「要支援状態」といいます)
2. 身体や精神に障害があるために、入浴・排せつ・食事等といった日常生活での基本動作が一定の期間に継続して、常に介護が必要となる可能性の人。
(こうした状態を「要介護状態」といいます)
3. ただし、40歳から64歳までの人は、老化による病気であることが条件とされています。

「老化による病気」とは次の病気です。

①筋萎縮性側索硬化症、②後縦靭帯骨化症、③骨折を伴う骨粗鬆症、④シェイ・ドレーガー症候群、⑤初老期における痴呆、⑥脊髄小脳変性症、⑦脊柱管狭窄症、⑧早老症、⑨糖尿病性神経障害・糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症、⑩脳血管疾患、⑪パーキンソン病、⑫閉塞性動脈硬化症、⑬慢性関節リウマチ、⑭慢性閉塞性肺疾患、⑮胸側の膝関節または股関節に著しい変形を伴う変形性関節症

4. 現在、悠遊郷やホームヘルプサービス等の各種介護サービスを受けている人も介護保険の申請が必要です。申請後、「要介護」「要支援」であれば、介護保険のサービスが受けられます。

◎手続きについて

1. 介護サービスを受けるためには、要介護認定・要支援認定の申請が必要です。申請は介護を受ける本人が役場に直接行うことになっています(申請に必要な用紙は役場に備えています)。しかし、痴呆等によって本人が申請できない場合は、家族・介護保険施設・知事の指定を受けた居宅介護支援事業者に代行してもらうこともできます。また、申請の際には主治医をお尋ねしますので、担当者にお伝えください。

不明な点は役場住民福祉課までお問い合わせください ☎62-2111

五所川原税務署からの お知らせ

年末調整説明会が 開催されます

五所川原税務署では、年末調整の説明会を下記のとおり開催します。

「年末調整」は、給与の支払いを受ける人について、毎月(日)の給料や賞与などの支払いの際に源泉徴収をした税額と、その年の納めなければならぬ税額と比べて、その過不足額を精算するものです。

本年は、特別減税も実施されておりますので、計算の際に間違いないようにするためにも、ぜひご出席下さるようお願い致します。

▶開催日時

平成11年11月25日(木)
午後1時30分～

▶場 所

五所川原市
ふるさと交流圏民センター
「オルテンシア」

▶対象地区

市浦村を含めた5町村

▶説明会についてのお問い合わせ

五所川原税務署
法人課税部門・源泉所得税担当
☎34-3279

戦傷病者無償乗車船券引換 証制度が改正されました

▶対象者

戦傷病者手帳の交付を受けている方のうち、第5項症以下の際害の程度を有し、平成11年度に、既に乙種引換証の交付を受け、かつ、本年10月1日において偶数枚の乙種引換証をお持ちの方であって半分の枚数の甲種引換証への交換を希望される方

▶改正内容

平成11年10月1日より偶数枚の乙種引換証(戦傷病者単独用)をその半分の枚数の甲種引換証(介護者同伴用)に交換する具体的には、次のとおりです。

障害の程度	交換枚数
第5項症～第1款症の方	乙種6枚→甲種3枚
第2款症～第5款症の方	乙種4枚→甲種2枚
第1目症～第4目症の方	乙種2枚→甲種1枚

※甲種1枚では、片道の乗車しかできませんので、注意してください。

▶請求期間

平成11年9月1日から平成12年3月31日

▶請求方法

お手持ちの乙種引換証を偶数枚、厚生省へ提出(郵送可)
(注)奇数枚所持する場合は、1枚は送付せず、残りの偶数枚だけ送付して下さい
(例)乙種引換証を5枚所持している場合
・4枚を甲種引換証と交換し、残りの1枚は送付しないこと(乙種引換証として使用可)

※平成12年4月1日からの請求方法は別途お知らせします。

▶請求窓口

厚生省社会・援護局援護企画課
戦傷病者援護係
住所 〒100-8045
千代田区霞ヶ関1-2-2
☎(代表)03-3503-1711内線3414
または、市浦村役場住民福祉課

青森県立母子福祉センター 法律相談開設

ひとりで悩んでいませんか (相談無料)

青森県立母子福祉センターでは、母子家庭、寡婦、父子家庭を対象に、生活の安定と自立促進を図るため、毎月第3火曜日に、法律相談(無料)を行います。

養育、相続、財産などいろいろな問題について、弁護士が法律相談にお応えしますので、どうぞご利用下さい。

▶相談日 毎月第3火曜日

▶時間 午後1時～午後3時
(一人30分以内)

▶場所 青森県立母子福祉センター・相談室(場合によっては電話相談も可)

※あらかじめ申し込み、予約が必要です。

▶申込・お問い合わせ先

青森県立母子福祉センター
青森市中央三丁目20-30
県民福祉プラザ3階
☎ 0177-74-3780
FAX 0177-35-4160

議会報告

平成十一年市浦村議会第三回定例会は、九月十三日から十七日まで開かれ、次のことが審議されました。

◎予算関係

市浦村一般会計補正予算(第一号)(第三号)は「億九千八百四十五万五千円を追加し、予算総額は三十三億三千四百八十一万三千元となりました。追加された主な事業
市浦村健康増進施設(タラソテラビ)整備事業
活彩あおもり大祭典参加費
十三地区公共施設排水設備工事
旧相内保育所解体撤去費
等となっております。

◎決算関係

平成十年度市浦村一般会計決算の認定他七件

◎条例 規約関係

市浦村老人家庭奉仕員派遣手数料徴収条例の一部を改正する条例について他一件

◎請願書、陳情書

◎発議案

一般質問は三和均議員と、葛西敬太郎議員が行い次のことについて質問をいたしました。

三和均議員

①市浦村の農業の今後の方向と



- ① 課題について、農業生産組織への支援体制について
- ② 生産基盤の確立と整備について
- ③ 各種イベントの充実について
- ④ 村内各施設の有効利用について
- ⑤ 村民健康施設(海水温泉)について
- ⑥ 葛西敬太郎議員
- ⑦ 統合小学校の計画について



市浦村の人口と世帯数 平成11.9.1現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,262	1,258	416
桂川	67	67	22
太田	267	266	86
藤元	519	519	194
磯松	311	310	109
横三	806	809	257
計	3,232	3,229	1,084

輝くあおもり新時代 活彩あおもり大祭典'99

・青森県文化観光立県宣言記念イベント・

ゆかりの方々に首都圏イベントの参加呼びかけを!

「文化観光立県」を首都圏にPRするため、昨年に引き続き東京ドームにおいて「活彩あおもり大祭典'99」が11月26日(金)～28日(日)までの3日間開催されます。今年も青森県の祭りや文化、郷土芸能、郷土料理など「まるごと青森」を首都圏に向けて発信いたします。当村からも郷土芸能に「相内の虫送り」が、郷土料理には「しじみラーメン」が、物産展には「輪ト一サム」が参加いたします。

今年も、たくさんの方々に参加を呼びかけるために、県民挙げての「はがき大作戦」を実施いたします。みなさんもこのはがきを首都圏にお住まいの親戚、友人、知人に出してみませんか。

はがきは、役場経済観光課に備えています。なお、このはがきは、首都圏イベントの入場整理券とインスタントくじ引換券を兼ねております。ふるってご活用ください。

※くわしくは役場経済観光課までご連絡下さい。☎62-2111

第20回 あすを拓くふるさとまつり

11月2日から3日までの2日間、コミュニティセンター及び海洋センターにおいて「第20回あすを拓くふるさとまつり」が開催されます。今年の主な催し物は以下のようになっています。

月 日	催し物内容
11月2日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ●お茶席コーナー (10:00～15:00) ●めご子学習発表会 (13:30～15:30) ●村民の舞台 (18:30～20:00)
11月3日 (水) (文化の日)	<ul style="list-style-type: none"> ●米まつり (9:30～12:30) ●ネーサンと仲間のコーナー (9:30～13:00) ●消防機材コーナー (10:00～15:00) ●ドライビング・シミュレーターコーナー (11:00～15:00) ●村民芸能発表会 (12:30～15:00)
2日間 開催	<ul style="list-style-type: none"> ●村民美術展 ●趣味の創作展 ●生け花展 ●物産まつりコーナー ●健康まつり ●郵便コーナー ●悠遊郷コーナー ●森林展 ●防火標語展

○村民の皆さんのご来場を、お待ちしております。

県内の交通事故概況

青森県交通対策協議会

8月	累計	死者のうち	高齢者の死者
発生 897件 (761)	5,600件 (5,320)		30 (36)
死者 17人 (17)	77人 (88)	20 (15)	
傷者 1,083人 (948)	6,736人 (6,387)	41 (46)	
		27 (23)	
		17 (10)	

()内は前年。累計は1月から。

露草斎苑の利用について のお願い

今年4月から共用を開始した市浦村露草斎苑(村宮火葬場)は、利用した方が清掃することになっておりますので、下記のとおり利用後の清掃やゴミの持ち帰りなどのご協力よろしくお願ひします。

○清掃する場所

1. 待合ホール
 2. 待合室(和室)
 3. トイレ
 4. 湯沸室
 5. 風除室
 6. 玄関ホール
- (以上の場所のふきそうじをお願いします)

○施設利用後のゴミは持ち帰ることになっておりますので、ご協力をお願いします。

※地藏堂及びゴミ箱のゴミも持ち帰りのご協力をお願いします。

一市浦村住民福祉課一

◎露草斎苑(☎62-2110)平面図



健康への道

No. 131

「痴呆」の予防

「物忘れ」は、年齢に伴って現れるシワや腰の痛みと同じで当たり前の変化でもありません。「物忘れ」でも、日常生活への支障をきたす場合が「痴呆」になるといわれています。

◆「痴呆」予防のために……

「痴呆」の一番の予防とは何でしょうか？

まず、第一に

◎「体が健康であること」といわれています。

一般的に高血圧症・高コレステロール血症・糖尿病は、いづれも「血管」が固くなっていく病気で、「血管が固くなる」↓「血のめぐりが悪くなる」↓「脳細胞が早く死ぬ」↓「呆ける」というような形が進むため、一番基本的な予防が、「早期発見」と「定期的受診」といえます。

第二に
◎「何事にも、積極的な姿勢で興味を持って楽しむ心をもつこと」といわれています。

やはり、家の中に閉じこもりがちで、「家の外」と接する機

健康老人と痴呆性老人の もの忘れを比較したものの 健康老人 痴呆性老人

生理的な脳の老化による。
体験の一部分を忘れる。
もの忘れの頻度は増えても進行しな
もの忘れを自覚している。
日常生活に支障をきたさない。

脳の疾病による。
体験の全部を忘れる。
もの忘れにとどまらず判断力の低下へと進行する。
もの忘れを自覚しない。
日常生活に支障をきたし、介護を要する。



▼お誕生

澤田 藤 彩々子 (相内 勝弘)
成田 留美香 (相内 清文)
有馬 正人 (相内 壽光)
奈良 花人 (相内 弘樹)
濱田 美花 (相内 利美)
育美 (十三) 洋美 治

▼ご結婚

(二藤部 優 (脇元)
相川 玲那 (千葉)
川上 弘幸 (磯松)
成田 美智子 (五所川原)
小川 美幸 (磯松)
葛西 美香子 (磯松)

▼お亡くなり

葛西 まさ子 (脇元) 75歳
三和 イサ (相内) 78歳

お詫ごと訂正

広報しゅうら九月号「お誕生」欄で、誤りがありましたので訂正してお詫びいたします。

黒川美海 (史元) 脇元
黒川美海 (脇元) 史元

あとかき

津軽半島中山脈には、熊がいなという説が覆されたのでしょうか。

九月二十八日、桂川地区通称「アイバギ林道」で熊の糞らしきものが見つかりました。山歩きや山菜採りが好きな人にとつて、山に熊がいるのかもしれないという話は、本当に迷惑な話であり、山に入るにも気が引ける。

これからキノコ採りシーズンに入り、山に入る人が多くなるが引ける。

(仮に熊がいたとして……) 山に入る時はなるべく複数で入り、鈴、ラジオを携帯し鳴らして歩くなど未然に熊の事故を防ぎたいものです。

村民のみさん入山する時は、充分気をつけて下さい。(三不)

来年四月からスタートする「公的介護保険制度」、皆さんの中でももうすぐ目の前のこととして感じられているはずですが、今回は「現在」もしくは「今後」の楽しい老後の為に「痴呆(ボケ)」をどうしたら予防できるかお話しします。

◆四人に一人の「痴呆症」
当村の六十五歳以上の割合は二四・五％で、その内現在家に居てサービス利用をしている、もしくはその必要がある人は、約十一％になります。そして、この十一％(約九十人)の中で何と四人に一人が「痴呆」症状を持っています。

この状況から見ると、自分にとつても「痴呆」と速くはない現状が予想されます。

◆「物忘れ」は「痴呆」？
確かに痴呆の中心症状となるのは、「物忘れ」です。しかし